

平成24年度 キャリア教育推進連携シン ポジウム 事例発表

山梨県立甲府昭和高等学校

教諭 丸山 淳



小中高連携について

山梨県の教育指導重点における重点施策の一つである「体系的なキャリア教育の推進」の具体的取り組みの一つに、幼・小・中・高連携による一貫した進路指導の推進がある。これに基づき、同じ町内にある昭和町立押原小学校，押原中学校，山梨県立甲府昭和高等学校の3校は、平成21年度から3年間にわたって山梨県の児童・生徒キャリア育成推進事業の研究協力校として、キャリア教育の一環としての小中高連携の実践に取り組むこととなった。



小中高連携のねらい

- 1 指導内容の一貫性。
- 2 児童・生徒の相互交流による人間関係形成能力の育成。
- 3 教職員の交流による相互理解の深化。

小中高合同会議

1 目的

小中高連携活動の目的，内容などを小中高校生が自ら協議する。

異年齢の児童・生徒と目的を共有する活動の準備を行うことで，自他の理解能力，役割把握・認識能力を育成する。

2 参加者

押原小学校 7名（児童会）

押原中学校 8名（生徒会）

甲府昭和高校 5名（生徒会，まちづくり研究会→23年度から社会研究同好会）

H22 小中高合同会議①

3 経過と内容

平成22年度

第1回 平成22年6月18日

第1回駅美化活動の内容，作業分担について協議小学生は安全確保の観点から美化活動には参加せず，啓発ポスター作成を担当することとした。



小中高連携「第1回駅美化活動」



H22 小中高合同会議②

第2回 平成22年9月24日

第1回駅美化活動の反省と第2回活動の内容を協議第2回活動は小学生が直接参加するため、清掃活動場所に押原公園を追加した。



小中高連携「第2回駅美化活動」



H22 小中高連携 ふるさとふれあい祭り でのアンケート調査活動」



H22 小中高合同会議③

第3回 平成23年1月27日

今年度の活動を総括し、次年度の方針を決定。

次年度はより地域に役立つ活動、小学生も参加できる場所で行うことを確認した。

参加者の反省

小学生 「自分たちの力で清掃ができてよかった」

「地域のために活動しようという気持ちが高まった」

「とりくみ方が勉強になった」

中学生 「清掃活動を通じてコミュニケーションがとれてよかった」

「アンケート活動でコミュニケーションの力が高まった」

高校生 「活動を通してお互いの仲が深まったので最後の清掃では積極的にコミュニケーションをとりながら楽しくできた」

「小中高の違いを気にせずに積極的に様々な意見を交換したい」



平成23年度 研究テーマ

「自己と他者、社会の理解を通して、
児童・生徒の自律を促す」



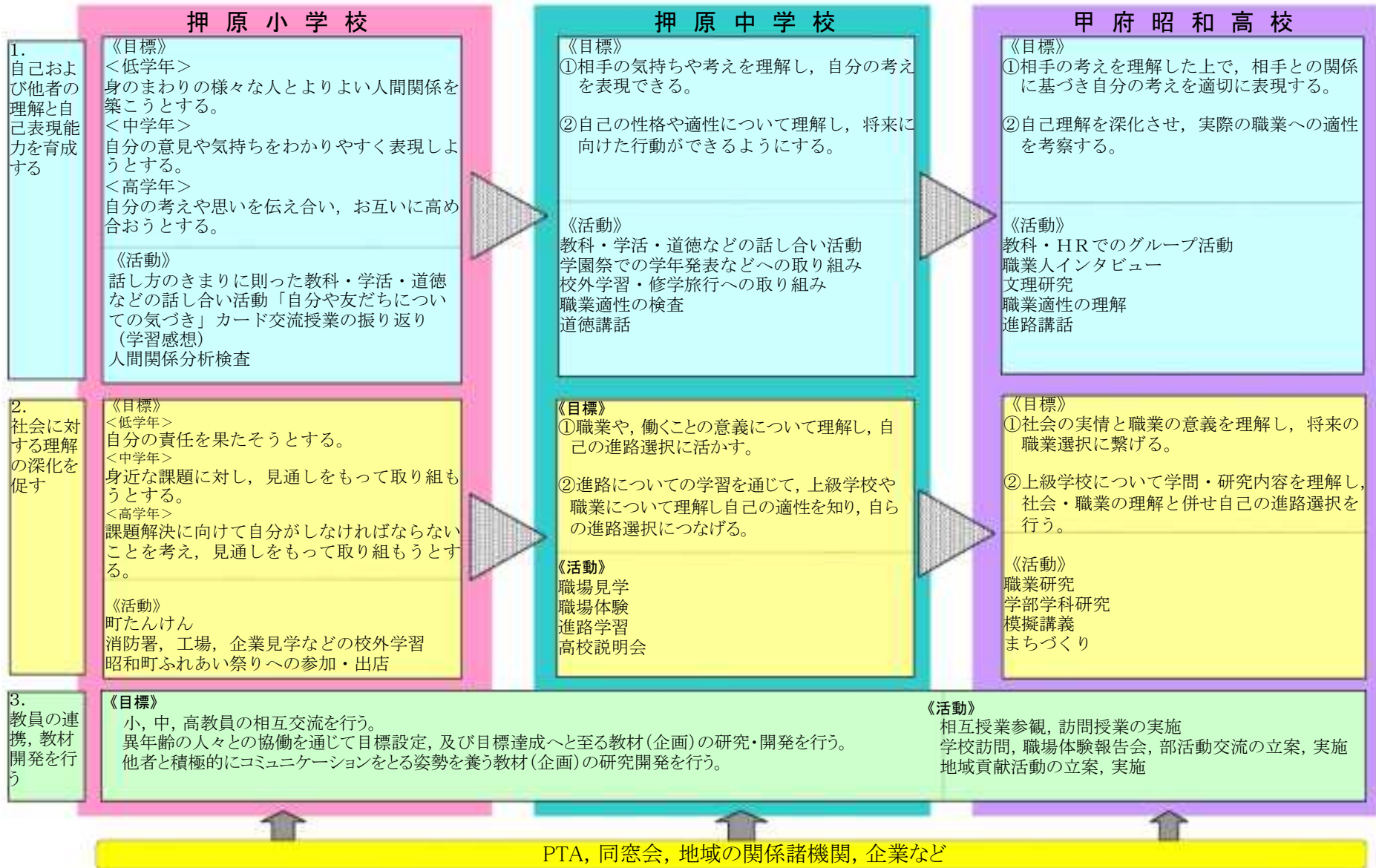
実施項目

- 1 自己および他者の理解と自己表現能力を育成する。
- 2 社会に対する理解の深化を促す。
- 3 教員の連携、教材開発を行う。

平成23年度 キャリア教育小中高連携概要

テーマ 「自己と他者、社会の理解を通して、児童・生徒の自立を促す」

設定の理由 キャリア教育を、児童・生徒が、生涯にわたって自分を見つめ、考え、行動することを通して、自己を実現させていき、社会的に自立していくための力を養う教育としてとらえる。児童・生徒自身に、自立を促すことができれば、未来へ向かって、自己形成、自己育成へと繋がるであろうとの考えに立ちテーマを設定した。そのための手だてとして他者・社会の理解・自己表現力の育成を中心に置き、小学校、中学校、高等学校の連携により段階的に目標や活動を設定する。



※ 各活動は主なものを掲載

押原小学校

1. 主な集団・宿泊的活動と目標

《林間学校（ハヶ岳方面）》 5学年
 (1)美しい自然に親しみ、自然を大切に
 する豊かな心を育てる。
 (2)集団行動を通して規律を尊重し、自
 分たちで考え行動することで協力する態
 度や自主性を育てる。
 (3)仲間との人間関係をより一層深める。
 《修学旅行（東京・神奈川方面）》
 6学年
 (1)鎌倉時代の歴史を調べ、見学するこ
 とにより、先人の遺した文化遺産に対す
 る関心を高める。
 (2)京葉・京浜地域の見学を通して、日
 本の政治・産業・交通等の発達の様
 や文化・自然などに接し、現在の日本の
 姿をとらえる。
 (3)働く人々の願いや苦勞、社会におけ
 る仕事の役割を知り、様々な職業に関心
 をもつ。

2. 職業理解的活動と目標

《秋を楽しむ》 1学年
 ・公共の場所での行動の仕方を知る。
 【情報収集・探索】
 《町探検》 2学年
 ・地域の商店や施設で働く人に話を聞き、
 自分たちの町について知る。【自他の理解】
 《商店、工場見学》 3学年
 ・商店や工場で働く人々の工夫や苦勞に
 ついて理解を深める。【職業理解】
 《消防署 環境センター見学》 4学年
 ・火事、防ぐための仕事や消火・救急の
 仕事、ごみ処理やリサイクルの仕事に
 ついて理解を深める。【役割把握】
 ・働く人の姿にふれ、努力や工夫、願い
 などについて知る。【職業理解】
 《通信産業、製造工業見学》 5学年
 ・情報発信の仕事や社会の中で果たす
 役割について理解する。【役割把握】
 ・働く人の姿にふれ、努力や工夫、願い
 などについて知る。【職業理解】
 《職業講話》 6学年
 ・職業や夢に関わる話を聞き、将来の自
 分について考える。【計画実行】
 《職業体験》 6学年
 ・職業を体験し、やりがいや苦勞につい
 て感じる。【職業理解】

押原中学校

《宿泊学習》 1学年
 (1)寝食を共にして活動することで集団としての意
 識を高め、協力・協調の態度を身につける。
 (2)自然を肌で感じ自分を見つめる機会とする。
 (3)勤勞体験を通じて働くことについて考える契機
 とする。
 《スキー教室》 2学年
 (1)集団行動を通して、約束を守り規律ある行動を
 身につける。
 (2)スキーの基礎的な技術の習得を通し、寒い環境
 の中でも、進んで活動する態度を養う。
 (3)雪に対する自己の健康保持、安全対策などを体
 験する。
 《修学旅行》 3学年
 (1)日本文化発祥の地に立ち、本物を自らの目や耳
 で確認しながら、その歴史や文化、風土に触れる。
 (2)集団行動を通して、規律や協力する態度を育成
 し、また、友情を深める場とする。
 (3)生徒一人ひとりが課題意識を持って学習に取り
 組み、それを自らの知恵と行動で明らかにすること
 で、主体的な態度の育成を図る。
 (4)異郷の地で、各自がその責任と節度を自覚して
 自主的に行動することで、自立への指導の一環とす
 る。

《職場訪問》 1学年
 ・身近な人の職業の内容調査、見学学習等を通して、
 その職業をより深く理解し、働くことの大切さや苦
 勞を知る。【職業理解】
 ・自分の将来の進路や生き方についての関心を高め、
 考えるきっかけとする。【計画実行】
 《職業講話》 2学年
 ・「働くこと」の意義を学び、自らの将来の姿を考
 えるきっかけとする。【職業理解】 【計画実行】
 ・社会が求める人材はどのような人かを知り、10月
 に予定している職場体験に向けての準備を始める
 きっかけとする。【自他の理解】
 《職場体験》 2学年
 ・実際の職場で働くことを通して、社会で必要な資
 質を学ぶ。【職業理解】 【情報収集・探索】 【コ
 ミュニケーション】
 ・働くことの大変さを実感し、その中から責任感や
 使命感を感じ取る。【役割把握・認識】
 《高校説明会》 3学年
 ・自分の適性を考え、自分の進路について自己理解
 を深める。【情報収集・探索】 【選択】
 《先輩が語る会》 3学年
 ・先輩からの説明を聞き、自分の進路について見つ
 め、当面の目標を達成するための課題を理解し、達
 成にむけ努力する。【自他の理解】 【計画実行】

甲府昭和高校

《スキー教室》 1学年
 冬季スポーツの代表である、スキーの正しい知識と技術を身
 につけることによって心身の健全な発達を促すとともに、集
 団行動を通じて社会ルールを身につけさせる。
 (1)集団生活内での役割と責任を会得する。
 (2)共同生活を通して、生徒間及び生徒と教師の人間関係を
 深め、相互理解を図る。
 (3)スキーの基礎技術を習得するとともに、グレンデでのマ
 ナーを学ぶ。
 (4)スキー用具等の名称及び使用方法を習得する。
 (5)健康でたくましい体力づくりへの意欲を持たせる。
 (6)志賀高原スキー場周辺の自然を理解し、自然保護の意義を
 知る。
 《研修旅行》 2学年
 1. 目的
 (1)主体的に学ぶ意志・態度・能力を育てる。
 (2)沖縄の歴史をたどり、文化・伝統を学ぶ。
 (3)沖縄の自然について理解し、環境問題を考える。
 (4)沖縄戦や基地問題について学習し、平和について考える。
 (5)仲間と協力し、協調できる豊かな心の育成を図る。
 2. 具体的目標
 (1)自ら研修旅行の目的を理解し、積極的に事前・事後学習を
 するとともに、計画的・意欲的に行動する。
 (2)規則、時間を守ることを通して、自ら率先して行動する。
 (3)様々な資料を観ることや、平和講話を通して、当時の沖縄
 の惨状を知り、戦争の悲惨さ、生命の尊さ、平和の大切さを
 考える。
 (4)歴史的に異文化との接点の地である沖縄を訪ね、豊かな心
 を養うとともに、国際人としての資質を養う。
 (5)生徒相互及び生徒と教師の間の理解と信頼を深める。
 (6)旅先で豊かな心のふれあいを体験する。

《職業人インタビュー》 1学年
 ・社会の実情と職業の現状、勤勞の意義、働く心構えなどを
 理解する。【職業理解】
 ・年長他者にインタビューをすることにより、コミュニケー
 ション能力を育成する。【コミュニケーション】
 《職業人講話》 1学年
 ・社会の実情と職業の現状、企業の求める人材、勤勞の意義、
 高校生のうちに身につけるべきことなどを理解する。
 【職業理解】
 《職業適性検査》 1学年
 ・客観的な自己の職業適性を理解する。【自他の理解】
 ・自己の将来の職業を考察・検討する。【将来設計】

※ 各校の活動は主なものを掲載

H23 小中高合同会議①

平成23年度

第1回 平成23年6月17日

前年度の活動を踏まえ今年度の第1回活動の内容を協議より地域に役立つという観点から、「危険箇所マップ」を作成することに決定。

連携活動として、今年度は活動に危険箇所現地調査を実施することを確認した。

小中高連携「危険箇所マップ作成」





今後の課題

- 1 キャリア教育の実践体制。
- 2 小中高連携の継続。
- 3 検証方法の確立。